

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

令和6年9月27日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 273-0048

所在地 千葉県船橋市丸山2丁目10番15

評価機関名 NPO法人 ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号

機構 06 - 163

電話番号 047-404-6300

代表者氏名 吉谷 健二



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	吉谷 健二	経営	H0306095
	②	大貫 敏夫	福祉	H2101007
	③	仲田 智恵子	福祉	H2001011
	④	鈴木 和子	福祉	H2001012
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可小規模保育園			
評価対象事業所名称	Baby Peace			
事業所連絡先	〒	134-0091		
	所在地	江戸川区船堀2丁目15番17号ドウェル船堀1階5番		
	TEL	03-6808-3471		
事業所代表者氏名	遠藤香織			
契約日	2024 年 5 月 8 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 7 月 22 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 8 月 19 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 7 月 2 日			
自己評価結果報告日	2024 年 8 月 1 日			
訪問調査日	2024 年 8 月 30 日			
評価合議日	2024 年 8 月 30 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	保育所の理念・方針・目標の達成プロセスを、組織運営とサービス実践の専門家がきめ細かく丁寧に確認し、公正・公平な評価報告書の作成に努めた。利用者調査ではアンケートを保護者の方に第三者評価オンラインシステムで実施して頂いた。今年度も評価の進め方について書面資料やメール等の活用を図り面会による感染リスクの減少に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

令和6年9月27日

事業者代表者氏名

遠藤香織



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)保育理念「ひとりひとりの個性を活かし能力を発揮できる保育園」 2)基本方針・子ども達が「自分には能力がある」「人々は仲間」と思えるような関わり ・子ども達の可能性を信じ、寄り添う保育 3)保育目標 ・勇気づけで自己肯定感を育む ・他社と協力することを学ぶ ・社会と調和して暮らす 4)小規模保育園だからこそできる家庭的で温かい丁寧な保育 5)職員一人ひとりに居場所があり、やりがいを感じられるような保育園づくり
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・本園の理念、方針に基づいて保育できる人材。 ・自分の考えが絶対ではないということ、人の意見や考えを素直に聞き入れ柔軟に対応できる人材。 ・自らの専門性や人間性の向上に努める人、また努めようとする人材。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・本園を選び入園してくれてきた利用者に寄り添った支援ができること。 ・命を預かっているという責任感。 ・自分自身の役割を見つけ、協力・助け合いながら保育（業務）を行うこと。

調査対象

全園児の保護者を調査対象とした。(兄弟・姉妹で利用している場合は一世帯一人としてお願いした)

調査方法

保育所より保護者に挨拶文を配布して頂き、アンケートは匿名で第三者評価オンライン回答システムにより実施して頂いた。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

19
19
19
11
57.9

利用者調査全体のコメント

総合満足の回答は「大変満足」73%「満足」27%で満足以上の回答が100%と極めて高い評価であった。90%以上の肯定的な「はい」回答項目は「園での活動は心身の発達に役立っているか」「活動は興味や関心を持てる内容か」「食事・おやつは工夫されているか」「利用時間の柔軟な対応」「行事の日程は配慮されているか」「職員との信頼関係」「職員は子どもの気持ちを大切にしてくれるか」「園内は清潔か」「職員の言葉遣いや態度」「体調が悪くなった時、職員の対応は信頼できるか」等11項目65%であった。80%以上の項目は「プライバシーは守られているか」「要望に対する職員の対応」「第三者委員に相談できることを説明してくれたか」等3項目18%であった。70%以上の項目は「自然や社会と関わる機会」「安全対策は十分か」「子ども同士のいさかい等があった場合の職員の対応」等3項目18%であった。「はい」回答項目が全項目の89%であり、大変高い評価であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
肯定的な「はい」回答が100%で大変高い評価であった。代表的な発言は「保育園で色々学び吸収し、成長を感じます」「おうちではできない経験(英語教室)や小規模保育園ならではのおおらかな雰囲気です楽しく過ごせているのではと子を見て感じます」等であった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	10	1	0	0
肯定的な「はい」回答が91%、「どちらともいえない」回答9%で高い評価であった。代表的な発言は「思う存分やらせてもらい、のびのび楽しんでいます」「園庭がない為、園外の活動(運動)時間が少ない」等であった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	0	0	0
肯定的な「はい」回答が100%で大変高い評価であった。代表的な発言は「ブログに写真をアップしてくれて、その月例に合わせて出しているのがわかります」等であった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	8	3	0	0
肯定的な「はい」回答が73%、「どちらともいえない」回答27%で高い評価であった。代表的な発言は「天気がいい日必ず、外に連れて行って来てます」「庭園がない分、お散歩や公園に行って思いっきり走ったり、植物や昆虫など自然に触れながら学ぶ機会があり十分確保できています」「園庭がない為、園外の活動(運動)時間が少ない」等であった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	0	0	1
肯定的な「はい」回答が91%、「非該当・無回答」回答9%で高い評価であった。代表的な発言は「とても助かっている」「当日に電話で遅れる旨を伝えても嫌な顔せず対応してくれて助かります」等であった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	8	2	1	0
肯定的な「はい」回答が73%、「どちらともいえない」回答が18%、否定的な「いいえ」回答が9%であった。代表的な発言は「外に飛び出ないように柵を導入したりしており、対策はできているのを感じます」「ドアの建て付けが悪いのか？たまたま力を入れて押さないと閉まらないときがある」等であった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	11	0	0	0
肯定的な「はい」回答が100%で大変高い評価であった。代表的な発言は「土曜日に行事があるので、父母ともに参加出来ています。祖父母も近くにいない、平日だと仕事を休むしかないので配慮されています」「土曜日で設定してくれていて助かることが多いです」等であった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	1	0	0
肯定的な「はい」回答が91%、「どちらともいえない」回答が9%であった。代表的な発言は「話しやすい距離感で、先生というより先輩ママと思ってます！」「トイレのタイミングやイヤイヤ期の対応などさりげなく相談した際、どの先生でも真剣にアドバイスをしてくれます」「スペースの狭い玄関での引き渡しの為、他の親御さんがいると焦ってしまいゆっくり話せないこともある」等であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	0	0	0
肯定的な「はい」回答が100%で大変高い評価であった。代表的な発言は「ブロックなど小さいおもちゃも消毒、天日干ししていて良いと思います」等であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	10	1	0	0
肯定的な「はい」回答が91%、「どちらともいえない」回答が9%であった。代表的な発言は「どの方も皆さんしっかりやっています」等であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	0	0	1
肯定的な「はい」回答が91%、「非該当・無回答」回答が9%であった。代表的な発言は「かすり傷でも帰り際に報告してくれたり、本人の体調の変化をみて連絡を頂けるので大変助かっています」「体温を何度も計ってくれて、水分補給を十分させてくれていたり、対応をしっかりやってくれてます」等であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	1	0	2
肯定的な「はい」回答が73%、「どちらともいえない」回答が9%、「非該当・無回答」回答が18%であった。代表的な発言は「子供が噛まれたなどの際は報告してくれているので対応は取ってもらってます」「小競り合い程度だと良い意味でも悪い意味でも報告が少ないのかもしれません。(自身の子が他児になにかしてしまったなどの報告がない為、わかりません)」等であった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	0
肯定的な「はい」回答が100%で大変高い評価であった。代表的な発言は「とても尊重していただいています。」「よく話をきいてくれ、声をかけてくれます」等であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	9	1	0	1
肯定的な「はい」回答が82%、「どちらともいえない」回答が9%、「非該当・無回答」回答が9%であった。代表的な発言は「守っていると思う」「玄関で他の親御さんと重なってしまうとなかなか完全なプライバシーは難しいように感じます。」等であった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	0	0	0
肯定的な「はい」回答が100%で大変高い評価であった。代表的な発言は「手紙やメール、連絡帳など教えてもらってます」「ブログや連絡帳でわかりやすく共有していただいています。」等であった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	0	0	2
肯定的な「はい」回答が82%、「非該当・無回答」回答が18%であった。代表的な発言は「対応は迅速です。」「思います」等であった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	9	1	0	1
肯定的な「はい」回答が82%、「どちらともいえない」回答が9%、「非該当・無回答」回答が9%であった。代表的な発言は「お便りで教えてもらいました」等であった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目
	カテゴリ1
1	リーダーシップと意思決定
	サブカテゴリ1(1-1)
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている
	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
	評価(〇〇)
	評価 標準項目
	☒ あり ☐ なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	☒ あり ☐ なし 2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	☐ 非該当 ☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
	評価(〇〇)
	評価 標準項目
	☒ あり ☐ なし 1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	☒ あり ☐ なし 2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	☐ 非該当 ☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している
	評価(〇〇〇)
	評価 標準項目
	☒ あり ☐ なし 1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
	☒ あり ☐ なし 2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	☒ あり ☐ なし 3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	☐ 非該当 ☐ 非該当 ☐ 非該当
	カテゴリ1の講評
	保育理念・目標・方針を職員会議や日々の昼礼で繰り返し確認し合い実践に努めている 「いつでも子ども達が『自分には能力がある』『人々は仲間だ』と思える関わり」や大切にしたい考え方を年度初めの職員会議で説明し確認し合っている。毎月の職員会議や日々の昼礼でも基本方針「子ども達の可能性を信じ寄り添う保育」等意見交換し、再確認している。保育理念・目標・方針は全体的な計画、指導計画、週日案に展開し実践に努め、月間反省会で話し合って理解を深めている。保護者には保護者会や入園前の説明会で保育理念や大切にしたいことを伝え、園だよりや行事の挨拶などでも「子ども達への思い」など園の考えを伝えるようにしている。 園の目標をよく話し合い、職員の主体性を尊重して、リーダーシップを発揮している 園長の役割と職務と組織図、業務分担表を明示し、園長会で園長の役割とその遂行を確認している。毎月の園長会で会社代表から理念やビジョンを再確認し、各園の課題を出し合い計画を立て、園にて全職員に取り組む理由とともに説明している。当園の今年度の目標は①子ども&保護者“満足100%の保育園” ②ゆったり保育 ③環境整備(使ったものは元に戻す)である。園長・主任は日々昼礼や日常の保育の中でよく話し合い、職員の主体性を尊重してリーダーシップを発揮している。 職員全員でやりがいや、居場所があると感じられる園づくりを目指している 園長は保育目標の「勇気づけで自己肯定感を育む・他者と協力する・社会と調和して暮らす」を子どもは勿論、職員にも感じてもらえるよう環境を整えるよう支援している。保護者からの要望・意見に誠意をもって対応し、職員からの要望や悩みにも迅速に対応し信頼関係を深めている。「子どもや保護者、職員など本園にいる全ての人に居場所があり、居心地が良い保育園」を目標として職員全員で団結し、よりよい保育が行えるよう、園長・主任が主となって職員がやりがいを感じられる、居場所があると感じられる保育園を目指している。

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
待機児童はゼロになり環境条件は厳しく、存在価値の高い選ばれる園を目標としている 園を取り巻く環境条件は厳しく、待機児童はゼロ、少子化と園増加により競争激化の状況であり、地域で存在価値の高い保育園として認知されるように努めている。利用者ニーズは日常の会話や年2回運営委員会等から意向や意見を聞き、ICT化の導入や園の様子を動画で見たいなどの要望に対し改善を図っている。職員ニーズは書類等の削減、ノンコンタクトタイムの導入、在宅での事務作業などがあるが、職員が定着し、園運営が安定していることが保育の質の向上につながり、子どもや保護者にも居心地の良い場所に繋がるという優れた目標を設定している。 中長期的な展望に基づき園運営の重要課題を設定している 中長期的な課題を検討し職員会議等で話し合っているが策定化はされていない。中長期的な展望に基づく、当園の今年度の課題は「勇気づける」「寄り添う」「保護者支援」であり、①保育者同士もお互いを勇気づけ、自己肯定感を高め、意欲的に働けるよう「勇気づけカード」を導入し、お互いの気付きや視点を評価すること。②保育者の関りが本当の意味で子どもに寄り添っているか、ミーティングで事例検討をおこなうこと。③保護者支援にはどこまで寄り添えるかという考えで力を入れること等を計画し着実に実行している。 主に月の反省会と職員会議、職員面談で計画と実践の反省をしている 計画の遂行には園運営全般の計画と保育の指導計画、職員育成計画に展開している。保育の指導計画に関しては毎月反省会を開き、各クラスがねらいに対する達成度を報告し全員で共有している。園運営全般に関わる計画は月例職員会議で確認している。職員育成計画は自己評価と目標を設定し研修等に参加し、個人面談により成長を確認している。職員全員で園全体の重要課題を深く共通理解し、保育の質の向上・専門性の向上に取り組んでいる。		

3 経営における社会的責任			カテゴリー3
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリー3の講評

職員ミーティングで常に話し合い、社会人・保育者としての基本を常に確認している

職員が守るべき法・規範・倫理等について、就業規則、個人情報管理規定、賃金規定、虐待防止マニュアル等を用いて職員ミーティングにて読み合わせや確認をおこない、周知している。職員は自己評価・振り返りシートで社会人として保育者としての考え方や挨拶・言葉遣いなどを自己評価・反省し基本を常に確認している。気になる言動はすぐに園長が注意し、再発防止のためミーティングで確認し合っている。職員は守秘義務誓約書を提出し業務上知りえた情報の守秘義務を徹底し、SNSの利用について守るべきことを徹底している。

日々の会話で寄せられた意見・要望は昼礼や職員会議で話し合い改善に努めている

苦情解決制度は入園前説明会で重要事項説明書を用いて個別に説明し、入園後は玄関に掲示し、園だよりでもお知らせしている。今回の苦情解決制度に関する保護者アンケートでの認知度は82%で高い評価であった。意見箱を設置し、日々の会話で寄せられた意見・要望はすぐに園長・主任、園代表へも報告し、昼礼や職員会議で対策を皆で話し合っている。ICT化の導入や園の様子を動画で見たい等の要望に対し、サービス改善に努め、改善策を口頭や書面、保護者会等で報告を行っている。

ホームページで保育内容を公開し、育児相談等で地域の保護者支援に努めている

園の情報はホームページに保育対象・年齢、1日の流れ、施設の様子など公開している。また園代表のブログや園長による園内の様子を発信している。地域の小規模保育園長会へ積極的に参加することで情報交換をおこない、地域ニーズを把握している。地域の中学生職業体験や実習生は積極的に受け入れ、昨年度は職業体験の中学生2名と実習生1名を受け入れている。子育て相談をおこない、園見学者の育児相談にのり保護者の手助けになるように努めている。今後、培われた保育経験を活かし、さらに地域に貢献できるような取り組みに期待したい。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
☒ あり ☐ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
	☐ 非該当	
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4 / 4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
	☐ 非該当	
カテゴリー4の講評		
事故防止や感染防止のために研修、安全チェック等対策を話し合い防止に努めている 重大な事故(睡眠中、水遊び、誤嚥、食物アレルギー等)を防止するため、研修実施、園内に防止ポイントを掲示、安全確保チェック表の実施、緊急時の対応体制整備、病院一覧表の作成、緊急連絡先カード整備、AED、エビペン等の研修を実施し事故防止に努めている。また、ヒヤリ・ハット、インシデント報告、事故等の分析をし、対策を話し合い防止に努めている。安全計画を策定し、毎月安全点検を実施している。感染症対策は新型コロナ感染、インフルエンザ感染、ノロ感染など必要な都度、研修しマニュアルに基づく感染防止を徹底している。 避難訓練を毎月実施し、大災害時の事業継続計画を策定し災害に備えている 緊急マニュアルを整備し役割分担体制を決め、毎月地震・火災、水害・不審者対応の訓練や隣接の地域包括支援センター職員と合同避難訓練を実施し、評価・反省・課題を記録した報告書を消防署に提出している。また、災害時の保護者・職員の連絡網を整備し、引き取り訓練を実施している。大災害時の事業継続計画(BCP計画)を策定し、万が一大地震等の災害や感染症、事故等が発生した際の対応を話し合い災害に備えている。 個人情報保護規定を定め、職員は誓約書を交わし守秘義務を徹底している 個人情報保護規定を定め、職員は入職時に、実習生やボランティアはオリエンテーション時に説明し、誓約書を提出など守秘義務を徹底している。個人情報の利用目的については、個人情報保護方針を全保護者に説明し、同意・署名して保管している。個人情報につながる書類は鍵付きの書庫で管理し、その他の書類は見出しをつけ、各書類がわかりやすいように整理している。パソコン内情報はパスワードで制限をかけ保管し、その他重要な情報や職員の個人情報などは園長のみのアクセスできるパソコンで管理している。		

カテゴリー5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

新人職員は社会人としての心構えや保育の基本を繰り返し学び丁寧に育成している

人材確保は区が主催の就職フェアへの参加から園見学、就職へと繋がっている。また、実習生からの就職や在職中の職員からの紹介による採用などが多く、特に当園の基盤であるアドラーの心理学を基に全職員が同じ方向を向き、子どもの捉え方を統一し保育運営をおこなうこと伝え、共感する職員を採用している。開設から9年、人材確保においてストレスを感じたことは無い。新人職員は園長より、法人の理念・方針、保育の基本、社会人としての心構えなど研修し、その後中堅以上の保育士メンター制度をとり、園全体で日々相談に乗り育成している。

職員はアドラー心理学勉強会を含み充実した研修を受け、園長の指導のもと育っている

自己評価・多面評価・計画書で理念・方針、行動姿勢、業務遂行の項目で自己評価と目標を設定して、園長面談によってモチベーションの向上を図っている。育成状況を見極めながら外部研修等の受講を計画し、キャリアアップ研修も本人の意向を聞きながら興味のある内容を受けられるよう支援している。園内研修はアドラー心理学研修を含み充実した研修を受け、現場OJT育成は日誌・週案・月間年間指導計画を振り返り、ミーティング、職員会議、園内研修等で情報を共有し、日々園長・主任が分からないことの助言をして育成している。

職員の長所や成長、感謝等を認め合い、全職員で幸せな職場づくりを目指している

誰にでも居場所のある職場作りを目指し、互いに認め合い、苦手なことは助け合い、得意なことを伸ばしていけるよう環境を整えている。園長が主となり、職員全員と些細なことでも毎日会話し、コミュニケーションを大切にしている。職員を多めに配置することで職員の負担軽減を図り、残業・持ち帰りはせず、プライベートも充実できるよう休暇もとやすい環境となっている。さらに、職員一人ひとりの長所、成長、感謝等をチームで認め合い充実感を深め、職員・子ども・保護者の幸せに繋がる幸福な職場づくりが行われている。

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

(人材育成)

保育目標の「勇気づけで自己肯定感を育む・他者と協力する・社会と調和して暮らす」を子ども達はもとより、職員同士が互いに尊敬あって働いていけることができる職場づくりに努めている。子ども達一人ひとりが「自分には能力がある」「人々は仲間だ」と感じるためには、保育士自身がそう感じることが大事であり、園長は一人ひとりと向き合い、勇気づけ、共に悩み、解決していく力を身に付けられるよう助言をしてくれている。また誰にでも居場所のある職場づくりを目指し、互いに認め合い、苦手なことは助け合い、得意なことを伸ばしていきける環境づくりに努めている。多くのことを職員同士で話し合い、皆で作り上げていけるように年度初めに職員全員で園目標を決めている。担任以外の保育士もなるべく固定の配置にすることで、互いに信頼関係を築きやすい環境を整え、行事担当も2人担当にすることで、意見を出し合い取り組めるようにしている。園長が主となりコミュニケーションをとり、話しやすい雰囲気を実践し、職員は年2回、自己評価をおこない、自分自身の保育や働き方を振り返り、園長アドバイスを受け保育の質の向上を図っている。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

【講評】

「誰にでも居場所がある職場作り」を目指したが、1名の退職者がいた。全て管理者の指導が至らなかったと理解し、園長・主任・副主任で次年度に活かせることを話し合っている。その他の職員は自分でやりがいを見つけ、役割を果たした。誰も貢献できることがあるので、自分で見つけられない保育者には園長面談により伝えている。新規職員育成のためにメンター制度を設け、今年度入職した職員はベテラン職員と担任を持ち園全体で育成に努め、4か月で「保育の喜び」を感じるように育てている。また、「勇気づけカード」を導入し、一緒に働く仲間にもメッセージという形で感謝を伝えられるようにし、職員一人ひとりの自己肯定感が更に育むよう取り組んでいる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(保護者との連携に力を入れている)

職員と保護者は子どもの成長を話し合い、相談し合えるワンチームと考えている。保護者理解に努め、お互いが本音で話せる関係性を目指し、子どものことはもちろん、家庭のこと、仕事のこと、良いことだけでなく愚痴や子育ての悩みなども吐けるよう、お迎え時は丁寧に個別対応に配慮し、ゆっくり話す時間を設けている。年度初めは担任が保護者対応をして信頼関係を築き、基盤ができた頃から担任に限らず、主任・園長、フリーの保育士も多方面から支援に努め、子育て中の職員も多いことから、悩みを共感することができた。調理職員も保護者対応に積極的に努め、食事に対する相談役となっている。年2回、運営委員会を開催し、保護者の意見・要望を把握し、改善に努め、園全体で保護者との連携に力を入れている。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【講評】

保護者アンケートで取り組み成果を確認すると、保育に対する総合満足は「大変満足」73%「満足」27%と満足以上の回答が100%と極めて高い評価であった。自由発言には「家庭的な保育園で、目も行き届いており安心して預けることができます」「小規模保育園なのでどの先生も一人ひとりの子どものことをよくわかってきているなと思います。ここに入ることができて本当に良かったと思います」「児に寄り添う保育という面、アドラー心理学を用いた保育という面では素晴らしいと思います」「今日できたことやその日の様子を帰り際に伝えてくれたりと細かいところまでしっかりと心配りができており、安心して子どもを預けられます」等の発言がみられ取り組みに成果が上がっている。今後、保育方針「いつでも子どもたちが、自分には能力がある、人々は仲間だと思える関わり」「子どもたちの可能性を信じ寄り添う保育」を園だよりなどで、遊び内容と主なねらい、保育目標をさらに分かりやすく伝え、保育園と家庭で共に目指す保育を実践できるように期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
ホームページは、詳細な内容や写真の掲載など、分かりやすい情報提供に努めている ホームページには、園の概要や取り組み等を詳細に掲載している。内容として、園の方針・特徴「アドラーの心理学に基づいた勇気づけの保育」や家庭的な保育、保護者支援、障害児保育について（看護師を配置し医療的配慮が行えること）、給食のアレルギー対応の他、保育室・行事・給食メニューの写真掲載など、利用者に分かりやすい情報提供に努めている。行政には随時募集人数の情報を提供している。また、子育てひろばや系列園などにパンフレットを設置し、区主催の地域関係者会議では、子育てニーズの把握や取り組みの情報共有に努めている。 園見学は常時受け入れ、個別に案内し利用者の求める情報の提供に丁寧に応えている 園見学は通年して受け入れ、利用者に合わせた対応に努めている。ホームページには常時受け入れについて掲載し、電話やメールで受付、園の状況により可能であれば当日の受け入れもおこなっている。見学の際は園長が個別に園内を案内し、園のしおりを用いて利用者の求める情報の提供や質問などにも丁寧に応えている。当園は0歳～2歳児までの乳幼児の生活の場であることから、感染症対策は園内や地域の発生状況を鑑みながら対応を図り、状況により玄関前にて短時間の案内とし、利用者の理解を得ながら進めている。 見学時は、保育体験を通して園生活の様子を感じてもらい、安心した利用に繋げている 見学時、保護者と離れられそうな子どもは、保育室で園児と一緒に遊べるように環境づくりをしている。子どもの姿や保育者とのかかわりの様子を見ながら、園の雰囲気を感じてもらい、園生活をイメージできるようにしている。また、体験を通して、園の目指す保育の理解や入園の際は安心して利用できるように、入園前の保育所体験としても、何度でも遊びに来れるようにアナウンスをしている。江戸川区は入園前の園見学が必須となっている為、園の方針や取り組みを利用者に伝え、理解を得る機会となっている。			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園前面談は個別に実施し、目指す保育内容や準備するものなど、丁寧に説明をしている サービスの開始前は個別に園長が面談し、園の様子を見てもらいながら、園の目指す「アドラーの心理学」に基づいた保育について伝え、質問にも応えている。準備する持ち物に関しては実際に使用している見本を提示し、イメージしやすいように伝えている。その他、入園式の案内、慣らし保育について、連絡帳の内容について丁寧に説明している。重要事項説明書は項目ごとに伝え、説明内容や個人情報取り扱いについて、サインと捺印にて同意を得ている。 子どもの保育に必要な情報を保護者と確認し、安心して保育を開始できるよう努めている アレルギー調査票、食物摂取票、児童健康記録票の内容を受けて、児童の健康状態や保育をおこなう上での配慮事項を保護者と確認し記録している。子どもや保護者が安心して園生活をスタートできるように、入園前の面談は時間を十分に設け、子どもの健康や発達状況、食事の形態、生活リズム、特徴、日中の生活や遊びの様子など丁寧に聞き取っている。利用時間の契約に関しても、保護者の勤務や家庭状況を把握し、其々の状況に応じた支援ができるように努めている。 利用の開始時、終了時は保護者の不安を軽減できるよう配慮している 利用の開始時は、概ね一週間の慣らし保育期間を設けている。その後は、子どもの様子や保護者の仕事との兼ね合いに配慮しながら、保育時間の調整を行い、安心した利用に努めている。また、慣らし保育期間は、通常より保育士を多く配置し、子どもが落ち着き安心して過ごせるように、生活リズムの配慮や好きな遊びの提供など環境を整えている。子どもが安心できる物があれば、持ち込みも許可し、一人ひとりに合わせた対応をおこなっている。2歳児クラスの卒園時は保護者アンケートや面談を実施し、園選びのサポートや相談等の受け入れ体制を整えている。		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

13 / 13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	☐ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	☐ 非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの心身や生活状況の情報伝達や共有内容を記録しアセスメントの見直しをしている

子どもの心身の状況や生活状況の把握は、連絡帳や登園時に口頭で聞き取り、日中の様子は保育中や昼礼時に伝え合い、一人ひとりの詳細な情報把握に努めている。保護者ニーズは個人面談の実施や日頃の会話から、子どもの成長の姿や困りごと、意向などを把握し、個人面談記録に記載している。子どもの成長・発達は0、1歳児は1か月毎、2歳児は3か月毎に児童票に記録している。日々の子どもの姿は個別に保育日誌に記録し、日常的に職員間で情報の伝達や収集に努め、共有を図りながらアセスメントの見直しをしている。

職員間の様々な視点で子どもの実態を捉え、指導計画の作成、見直しに努めている

指導計画は、全体的な計画に準じて、年齢の担当職員が年間・月間・個別計画・週間計画を作成している。年間計画は3か月に一度、月間計画は毎月振り返り、次月の計画を立案している。配慮の必要な子の個別計画は、担任、看護師、主任、園長なども加わり、配慮や改善点をより明確にして援助できるようにしている。当園は小規模園の利点を活かし、日頃から一人ひとりの子どもの思いや成長の姿などの気づきを各職種間で伝え合い、意見交換することで、多方面からの支援方法を指導計画に反映できるように取り組んでいる。

指導計画や保育内容を保護者に分かり易く伝えることに努め、職員間で学び合っている

園の理念や保育目標に沿った保育内容の理解を得る為、入園式やクラス懇談会、行事等の機会に詳しく説明している。月の園だよりでは、各クラスのコメント欄を設け、目標や子どもの姿を伝え理解に繋げている。アドラーの心理学の考えを基にした保育内容について、保護者の質問や関心も高く、全職員が同じ方向性で保育を実践し、子どもの育ちを具体的に伝えていけるように事例を通した園内研修をおこない職員間で学び合っている。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
一人ひとりの子どもや保護者の思いを尊重し、心情に寄り添った関わりを大切にしている アドラー心理学を基に「一人ひとりの子どもの能力を信じ寄り添う保育」を方針としている。子どもと大人は対等な関係であると考え、子どもの言動を尊重し「えらいね、すごいね」と褒めることより「ありがとう」の感謝の気持ちと勇気づけの言葉かけを大切にしたい関わりに努めている。また保護者の事情や状況、価値観や生活習慣を理解して受け入れ、保護者と共に子育てしていく姿勢を大切にしている。小規模園ならではの家庭的で温かい雰囲気の中、園は子ども、保護者、職員にとって居心地の良い居場所となっている。 個人情報保護や子どものプライバシー保護に取り組んでいる 守秘義務や個人情報の取り扱いについて職員、保護者、実習生、ボランティアに説明し同意を得ている。個人情報に関する書類は鍵付きの書庫に保管し園長が鍵の管理をおこなっている。書類の外部への持ち出しは厳禁とし、外部とのやり取りが必要になった際には個人情報管理規定に則り、事前に保護者に口頭で説明し同意を得ている。子どものプライバシーについては、着替えの際は外部から見えないよう仕切りを使用したり、裸にならないよう着替えの順番に配慮する、おむつ交換の際やトイレは仕切りを使用する等、子どもの羞恥心に配慮している。 虐待防止や不適切保育への意識向上を図っている 子どもへの不適切な対応については「人権擁護のためのセルフチェックリスト」「保育の質のガイドラインチェックリスト」を活用し園内研修で学び合い虐待防止や不適切保育への意識向上に繋げている。園長は保育室を巡回しながら職員の悩みや躓きを把握し適切な助言と指導に努めている。一人ひとりの良い所や得意な事を伸ばし、苦手な部分は職員間の助け合いと協力でフォローし合うことを大切にする職場環境の中で、職員は高いモチベーションと自己肯定感を持って保育にあたり保育の質の向上に繋げている。		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5 / 5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
手引書やマニュアルを整備し、サービスの基本事項や手順を明確にし周知している 個人情報管理規定、感染症や食物アレルギー対応マニュアル、災害や事故発生時対応、安全計画、BCP等の手引書を整備している。各手引書の見直しと更新は年度末におこない、年度はじめの職員会議で内容の周知を図っている。今年度は3日間実施した新規採用職員研修で園長から具体的な内容を伝え理解に繋がるようにしている。また迷ったり困ったりした際にはワンフロア環境を活かし職員同士が声を掛け合いサービスの維持を図っている。怪我発生時の対応、病院リスト、食物アレルギー対応マニュアルについては各保育室に掲示し緊急時に備えている。 定期的に自己評価をおこない、業務の標準化を図っている 園の方針への理解、健康と安全への配慮、指導と援助、計画と記録、義務、組織の一員としての在り方、良識とマナー、守秘義務等の項目を5段階で年間2回自己評価と園長評価を実施している。自己評価を基に園長と面談をおこない、職員が設定した今年度の目標と挑戦してみたいことについて進捗状況の確認をしながら、次期への取り組み内容を明確にしている。保育の指導計画、保健計画、食育計画については定期的に評価、反省し課題を次期の計画に活かし保育の質の向上を図っている。 保護者や職員の意見や要望を反映し、サービスの向上に繋げている 日々の送迎時の保護者との会話や個人面談、年2回の運営委員会、玄関に設置したなんでもボックス、行事後のアンケート等により、保護者の意見や要望を聞く機会を積極的に受け付けている。また園長及び主任保育士は保護者や職員が意見や要望を言いやすい関係づくりに努めている。保護者からの意見や要望は職員会議で話し合い園運営に反映させている。また月々のおたより、頂いた意見と改善策を掲載し保護者全員に公表している。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		
		評点(〇〇〇〇〇)・非該当1
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
☐ あり ☒ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	
評価項目1の講評		
子どもの姿を職員間で伝え合い、全体的な発達を把握しながら連携した保育に努めている 定員が19名と少ない為、子ども一人ひとりの発達過程や生活状況を把握しやすい環境であり、登園から降園まで、クラスの枠を超えて、保育者間で気づきを伝え合いながら、保育をおこなっている。職員同士もアドラーの心理学を意識した関わりに努め、互いに認め合い、協力して保育する関係性ができている。園内の雰囲気は家庭的で温かく、子どもと保育者が穏やかに過ごしながらかつ連携し保育している。 子どもの「やってみたい！」思いを受け止めた環境づくりにより、主体性を育んでいる 日々の保育の中で、子どもの「やってみたい！ やりたい！」思いをキャッチし、職員間で気づきを伝え合いながら主体的な遊びに繋がる環境づくりに努めている。玩具は子どもの創造力を引き出せるようなものを選び、子どもの姿を観察しながら遊びのきっかけ作りをし、様々な展開出来るように援助している。タオルを使った遊び事例では、沢山のタオルをみんなで吊るし映画のスクリーンに見立て映画ごっこに発展した。生活面でも着替えや食事、片付けなど、「自分でやりたい！」思いを受け止め、「自分でできた」喜びを得て満足できるよう援助している。 配慮の必要な子どもが仲間と心地よく過ごし成長に繋げていく環境づくりに努めている 保育室は年齢毎に仕切りを設けているが、ワンフロアであり活動によっては異年齢で交流し遊んでいる。多国籍の子どもや障害児、医療的ケア児など配慮の必要な子どもも、みんなと一緒に過ごしながらかつ文化や習慣の違い、障害の有無にかかわらず、仲間として自然に触れ合い楽しんでいる。保育室全体が見通せる環境であり、保育者は子どもの様子を把握しやすく、声を掛け合いながら安全に配慮し、子どもが安心して生活や遊びを楽しめるよう援助し、一人ひとりの成長を見守っている。		

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登園時や連絡帳で子どもの様子を保護者に確認し、心身の安定に配慮し保育している

対応の一貫性を保つため、受け入れ時の確認事項は統一し、得た情報を登降園確認表に記載して、全職員に情報を伝達している。配慮が必要な場合は口頭で直ぐに担任に伝えている。昼礼時には登降園確認表の内容を全職員に伝達し共有を図り、保育中に新たな連絡事項等が発生した場合は確認表に追記し、降園まで一貫性をもった配慮や対応ができるよう努めている。体調面で変化があった場合には、主任、園長が直接状況を確認するなど、全職員で連携し子どもの心身の安定を図り、安心して過ごせるようにしている。

子どもの発達や保護者の意向も踏まえ、連携して生活習慣が身につくよう援助している

一人ひとりの子どもの発達や、「やってみたい」気持ちを見逃さず環境づくりをしている。子どもの頑張りを見守りながら、自分で出来た喜びが味わえるような関わりに努め、成功体験の積み重ねにより、自信をもって次のステップに進めるように援助している。また、家庭との連携が大切であるため、保護者との会話から得られる情報をもとに、意向も踏まえながら支援方法を考えている。食事、排泄、着脱、休息・午睡時の子どもの様子は、連絡帳や口頭で家庭と状況を適宜共有し、保護者と相談し合いながら、同時進行の取り組みを大切にしている。

降園時には、子どもの状況を保育担当者が直接伝え、保護者との関係性を深めている

小規模保育園の環境を活かし、降園時には基本的に担任が保護者に子どもの様子を直接伝えていけるような体制づくりをしている。担任以外の保育者が対応する際は、登降園確認表により、伝達漏れのないように努めている。保護者との日々のコミュニケーションを大切にしたい取り組みに努め、何でも気軽に伝え合える関係性ができている。保護者アンケートの「相談や信頼関係」に関する項目では91%の肯定的回答を得、信頼度の高い結果となっている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもの自己肯定感を高め自発性を尊重する保育環境の中で、のびのびと遊んでいる

子どもが長時間過ごす園の環境は、家庭のように安心してくつろげる場でありたいと考え環境づくりをしている。保育室は年齢毎に仕切りを設け、子どもの発達や興味に合わせた玩具を設定している。遊びのコーナーは子どもの姿を観察し、適宜環境設定を変えたり、活動によっては異年齢で遊ぶなど柔軟に対応している。ままごとコーナーは、創造力を膨らませて遊び込める環境をつくり、用意したタオルを皆でぶら下げ映画のスクリーンに見立て映画館ごっこに発展した事例もある。また、職員が子ども一人ひとりに作ったタオル人形は心の癒しとなっている。

沢山の言葉がけや、言葉による伝え合いを楽しみ、言葉の理解や発語の意欲を育んでいる

0歳～2歳までの乳幼児期は言葉を習得する、大切な時期である為、子どもが安心して発語や言葉による伝え合いが楽しめるように、保育者は心地よい雰囲気の中でたくさんの言葉がけをし、言葉の理解や発語の意欲を育めるようにしている。子どもの成長に合わせて関わり方を変えることで、言葉のやりとりを楽しみながら、人と関わることの楽しさや温かさを感じられるように援助している。朝の会では、名前を呼ばれたら返事をする、友だちの返事を聞くなど、友だちを認識する場ともなっている。ままごとコーナーではごっこ遊びを楽しみ会話が弾んでいる。

戸外遊びや様々な表現遊びが楽しめるよう計画し、体力、感性、表現力を育んでいる

天候の良い日は毎日近隣の公園に出かけ遊びを楽しんでいる。その日の活動のねらいにより目的地を決め、固定遊具遊びや自然探索など様々な遊びを体験し、体力、感性を培っている。園外活動は安全にも十分に配慮し職員を配置している。表現活動は、週に1回、英語講師と関わりながらリズム遊びや言葉あそびを楽しんでいる。造形遊びは2週に1回、講師による活動を取り入れている。子どもたちは、いずれの活動も楽しみながら参加し表現力を育んでいる。保育者は遊びから得た体験を日常の保育活動にも積極的に取り入れ、遊びに活かしている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
子どもの興味や関心に合わせた環境づくりをし、楽しみながら参加できるようにしている 前年度の反省をもとに、行事の内容を考え、子どもが興味・関心をもてるような環境づくりに努めている。また、0歳～2歳までの乳幼児であり、発達に合わせて子どもの負担にならないように、行事数や時間配分を調整して無理なく参加できるように配慮している。今年度は、こどもの日の会、親子で遊ぼう会、夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマス会、お正月遊び、節分会、ひなまつり、お別れ遠足、おおきくなったね会を計画し、日本の伝統的行事も取り入れながら、みんなで楽しみながら参加できるようにしている。 みんなで取り組んだ喜びが味わえるような環境づくりを工夫し、行事を実施している 今年度の夏祭りは、みんなでお神輿づくりに取り組んだ。造形活動であそんでいる内容を取り入れ、年齢毎に子どもの発達や興味に合わせて楽しみながら制作し、お神輿を飾りつけ完成させた。子どもが集中して遊んでいる姿に、保育者は「子どもって、すごい!」と感動し、やりたい子が満足できるまで遊び込めるように環境づくりをしていった。完成したお神輿を見て、達成した喜びを味わう姿が見られ、保育者も一緒に喜びを共有した。 保護者向けのブログで、子どもの活動の様子を発信し保護者の理解や協力を得ている 園見学や入園前に、行事の年間予定を保護者に早めに伝えている。日々の活動の姿は保護者向けのブログで発信し、保護者の理解や協力を得ている。また、行事の様子はその日のうちに記事をアップし、子どもと楽しさを共有できるようにしている。2歳児の卒園遠足では、お弁当作りに協力してもらい、遠足の様子をブログで発信することで、保護者の理解も深まり、園からも感謝を伝え協力し合える関係性を築いている。夏祭りでは、お神輿づくりの過程や一人ひとりの様子を写真掲示やメッセージで伝え、最後はお神輿の前で家族写真をとり皆で楽しめた。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
保育時間の長い子どもが安心してくつろげる環境づくりに配慮している 職員配置に余裕を持たせ、朝夕の時間帯も可能な限りクラス単位での少人数保育を実施している。一日の疲れが出たり、友だちが少なくなり寂しい気持ちになる夕方は、子どもの思いを受け止め膝に抱いたりスキンシップ等でゆったり過ごせるようにしている。18:20頃にはおにぎりの補食を提供し、空腹が適度に満たされるようにしている。子どもが穏やかな気持ちで保護者の迎えを待つことができるよう、ゆったりした関わりと環境づくりに配慮している。 保育形態に変化が生じる中で、子どもが好きな遊びを楽しめるよう配慮している クラスごとの保育から少しずつ合同保育に移行している。17:30を目安に0歳児から2歳児までのおよそ4名程の子どもが0歳児または1歳児室に集まり一緒に過ごしている。担当者は子どもの様子に合わせて遊びを設定し、体操等で身体を動かしたり紙芝居やパネルシアター等、動と静の遊びで内容に変化を持たせている。また延長保育用の絵本やパズルを用意し日中とは異なる玩具で楽しく過ごせるよう工夫している。 子どもの様子や変化等を口頭と書面で引継ぎ、職員間で共有している 担当者は子どもの様子や保護者からの伝達事項を、登降園確認表を見ながら担任保育士へ口頭で引継ぎをおこない伝達漏れのないよう努めている。また担任保育士は昼礼で子どもの様子や変化、保護者からの要望等を伝え全職員で情報を共有している。長時間保育の内容は延長保育日誌に利用者名や子どもの姿を記載し、翌日の延長保育の内容に繋げている。			

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

一人ひとりの子どもの状況に配慮した食事の提供に努めている

離乳食は食物摂取票を基に保護者と調理員が情報を共有しながら、月齢だけではなく一人ひとりのペースに合わせて離乳食から幼児食への移行を進めている。食物アレルギーのある子どもや医療的ケアが必要な子どもの食事は保護者を通じて医療機関から得た情報を基に食事の提供をおこなっている。またチェック体制を整え誤食や誤嚥のないよう注意を払い安全な食事の提供に努めている。体調の思わしくない子どもや食文化の違いにも応じている。調理員は子どもの状況や食べ具合を直に確認しながら一人ひとりの状況に配慮した食事の提供に努めている。

「食の楽しさを知る」のテーマを目指した食育に取り組んでいる

気の合う友だちと好きな席で会話しながら楽しく食べる、苦手な物を無理強いせず好きな物から食べる、毎月イベント献立を取り入れ行事に合わせたメニューを工夫する等、子どもが食事を楽しめるようにしている。2歳児はトマトの栽培、とうもろこしの皮むき、うどん、おにぎり、クッキー等のクッキング体験を通し食への興味、関心を高めている。子どもが食事の時間が嬉しい、楽しみだと思えるよう、保育者と調理員が連携して保育と運動した食育活動に取り組んでいる。

食に関する情報発信に努め、家庭の食育推進に繋げている

写真付きの献立表を玄関に掲示し、毎日の食事内容を保護者に知らせている。調理員は「もぐもぐだより」を年4回発行し、旬の食材を使用したレシピや安全な食生活に向けての留意点等を掲載し、保護者に情報提供している。また保護者に積極的に声をかけ食事に関する相談に応じている。子どもの園での食事の様子や、人気のメニューをブログで発信したり、レシピの要望に応じる、保育体験後の給食の試食等、園の給食への理解と家庭への食育推進に繋げている。保護者アンケートでは食事に関する項目は100%の肯定的回答と高い評価を得ている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心をもち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

子どもの病気や怪我の防止対策と、発生時における迅速な対応に努めている

年間保健計画及び、日々の設備管理、感染対策、災害対策等を盛り込んだ安全計画を作成し、安全で過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。子どもの年齢や発達状況に応じた安全な室内環境を整備し、毎月、安全チェックリストを基に点検をおこない事故を未然に防ぐよう努めている。また玩具、コット、床の消毒、手洗い、うがい等の感染症対策を徹底し、疾病防止や感染拡大防止に努めている。事故、疾病が発生した場合は迅速な対応ができるよう怪我の応急処置、嘔吐処理方法等、計画的に研修し技術を身につけ緊急時に備えている。

保護者、嘱託医、園が連携し子どもの健康維持に努めている

内科健診では母子手帳を預かり、嘱託医が健康及び発達状態や定期健診、予防接種について確認をおこなう他、事前に保護者から把握した子どもの健康面の相談内容について嘱託医から助言が得られるようにしている。内科健診や歯科検診、身体測定の結果は児童の健康診断に記録し、保護者には一人ずつ口頭で伝えている。保護者、嘱託医、園が連携して健康状態や発育状態を確認し子どもの健康維持に取り組んでいる。日々の健康状態は送迎時に保護者と口頭で確認し合い、子どもが一日を通して心地よく過ごせるよう配慮している。

配慮が必要な子どもや医療的ケアが必要な子どもを受け入れる体制を整えている

障害を抱えた子どもの居場所づくりと安心して社会体験ができる場の提供を目指し積極的な受け入れに努めている。看護師2名を配置し、受け入れる際には子どもの病状や対応について職員会議で情報共有を図っている。また専門機関や子どものかかりつけ医、保護者、必要に応じて訪問看護や療育施設と連携を図り受け入れ体制を整えている。当園の在籍は2歳児までのため3歳児以降についても子どもの育ちを継続して保育、支援していけるよう系列園や区と連携体制を図っている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
丁寧な保護者対応に努め保護者の安心と信頼を得、良好な信頼関係を築いている 保育内容や子どもの様子は送迎時の会話、連絡帳や園だより、クラスだより、ブログ等で発信している。入園している子どもたちは運動、言語、情緒、生活面等の発達が著しい0歳児から2歳児であるため、特に会話でのやりとりを大切にしている。会話から把握した子育ての悩みや相談は昼礼、ミーティング、日々の中での職員間の声の掛け合い等で共有し、担任だけではなく全職員が同じ方向性で対応し、園のすべての子どもと保護者に全職員で関わる姿勢で取り組んでいる。丁寧な保護者対応は、保護者アンケートの総合評価で100%の満足度を得ている。 保護者の思いや就労状況に寄り添い、保護者の負担軽減に努めている 保護者の仕事が休みの日も保護者の通院やリフレッシュの時間を大切にしたいと考え、希望があれば9:00から16:00の間で子どもの保育を受け入れる、日々の持ち物は最低限の着替えと連絡帳、おむつはパックごと持ち込み記名や在庫管理は園がおこなう、急な残業等による延長保育は柔軟に対応する、行事は参加しやすいよう土曜日開催とし参加は両親、兄弟など家族みんなで楽しめるよう配慮する等、保護者の状況に寄り添い負担軽減に繋がる取り組みを実践している。 懇談会や保育参加は保護者同士の交流を深め、育児力向上に繋がる場となっている 入園式や保育参観後に懇談会を設けている。年度当初の懇談会は自己紹介や子どもの良い所を話して頂きながら、和やかな雰囲気の中で進めている。秋以降になると職員はサポート的な立場になり保護者が主体となって会を進めている。会を重ねる毎に子育てをする中での共通の悩みや喜びを保護者同士が自由に話し合ったり、ゲームを楽しみながら保護者同士の繋がりを深めることで、顔見知りになった保護者が送迎時に声を掛け合う姿が見られている。保育体験は保育者と子どもの関わりを見て頂きながら子どもと過ごす時間を楽しむ場となっている。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
近隣の施設や保育園と連携し、子どもが多様な体験や交流ができるようにしている 園周辺には多くの公園があり、積極的に散歩に出かけている。公園では探索活動やかけっこで身体を動かすことを楽しんだり、季節の草花や虫を見て言葉を発したり様々な体験を広げ体力、発語、感性等の育ちに繋げている。また近隣の保育園と交流し公園で一緒に遊んだり、ハロウィンでは仮装してお互いの園を歩き来する等、交流の機会を作っている。近隣のNPO法人の施設や学童クラブには金魚、カメ、メダカがおり観察したり餌やりをする、また施設利用者のギター演奏を聴いたり、合同で避難訓練をする等の関係を築いている。 保育園の専門性を活かし、地域の子育て支援への取り組みに期待したい 実習生や中学生の職場体験を積極的に受け入れ次世代の保育士養成に繋げている。園見学に来た際には、園内を解放して保護者に保育体験をしていただいたり、子ども同士と一緒に遊ぶ場を作っている。見学者の中にはその後も繰り返し来園し園児と交流を楽しむ姿も見られる。今後、保護者向けに園が取り組んでいるアドラー心理学の勉強会、出産を迎える親の育児体験、園行事に地域の方を招待する等、地域貢献の取り組みを検討している。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	医療ケア児や配慮を要する子どもが仲間と共に心地よく過ごせる環境づくりに努めている	
内容①	当園は、看護師やゆとりある保育士配置により、医療的ケアや配慮を必要とする子どもたちが居心地の良い環境の中で、仲間と一緒に生活や遊びを楽しめるように受け入れ体制を整えている。入園に向けては、保護者から子どもの生活状況や配慮事項、意向等を丁寧に聞き取り、園の方針である、「子どもたちの可能性を信じ、寄り添う保育」に向け、職員間や専門機関と連携を図り、その子にとって最善の環境を保障できる保育に努めている。小規模保育園のアットホームな環境の中で、保育者に見守られ、仲間同士で楽しみ合い、のびのびと過ごす姿が見られる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル②	職員育成に力を入れ、研修や情報を共有し、日々、園長・主任が助言をして育成している	
内容②	理念・方針等、自己評価と目標を設定して、園長面談を受けモチベーションの向上を図っている。外部研修やキャリアアップ研修等本人の意向を聞きながら興味のある内容を受けられるよう支援し、園内研修はアドラー心理学研修を含み充実した研修を受けている。現職員のOJT育成は日誌・週案・月間年間指導計画を振り返り、ミーティング、職員会議、園内研修等で情報を共有し、日々園長・主任が助言をして育成している。今年度入職した職員はベテラン職員と担任を持ち園全体で育成に努め、4か月で「保育の喜び」を感じるように育っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	献立や食事環境の工夫と、食に関わる体験活動により食べることへの楽しみに繋げている	
内容③	毎月行事に合わせたイベント献立や季節に応じた献立を取り入れ、夏にはニンジンやオクラで星を模った七夕そうめん、肉みそとコーンで作ったひまわりライス、ハロウィンではかぼちゃの顔ライス等、子どもがワクワクしながら視覚からも楽しめるよう工夫を凝らしている。調理員はクラスを巡回し子どもたちに声をかけながら食べ具合を確認し、大きさ、切り方等、翌日の献立に活かしている。2歳児は保育と連動した食育活動を計画的に取り入れ、食材に触れたり、クッキング等で食への興味、関心を高め子どもの食べることへの楽しみに繋げている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの心に寄り添い、勇気づけや共感により自己肯定感を育み、主体性を尊重したかわりの中で、自己発揮できる保育に取り組んでいる
	内容	当園は、アドラーの心理学を基に、子どもの気持ちに寄り添い、勇気づけや共感の言葉がけを大切にしたい保育により、自己肯定感を育てている。また、一人ひとりの子どもが個性や能力を安心して発揮できるように、保育者間で子どもの姿を観察し情報の伝達、共有を図りながら、「やってみたい、やりたい！」が叶う生活や遊び環境を整え、子どもが自己を発揮し、満足できるまで遊び込めるよう援助している。教材は子どもが創造力を膨らませ様々な遊びを展開できるような素材を用意し、保育者も子どもたちと楽しさを共有しながら、遊びの展開を見守っている。
2	タイトル	保護者の思いや状況に寄り添った丁寧な対応で良好な関係を築き、保護者支援に努めている
	内容	家庭的で温かく居心地の良い園でありたいと、職員は思いをひとつにして丁寧な保護者対応に努めている。全職員が全園児の育ちを見守ると共に、保護者が抱える悩みには様々な職種がアプローチしながら共に考え子どもの成長をみんなで喜び合い、保護者から「この園に入れて良かった」と安心と信頼を得ている。保護者同士が交流し合える場の設定、障害をもつ子どもや医療的ケアを必要とする子どもを積極的に受け入れる等、保護者の子育てと就労支援に繋げている。保護者アンケートでは100%の満足度を得、感謝の声も多く寄せられている。
3	タイトル	コミュニケーションを大切に、チームワークの良い働きやすい職場を築いている
	内容	職員も子どもも同じ方針で、「勇気づけで自己肯定感を育む・他者と協力する・社会と調和して暮らす」を子ども達はもとより、職員同士が互いに尊敬しあって働いていくことができる職場づくりを大切にしている。職員個々の得意なこと、強みを認め合い、長所をチームに活かすようにしている。勤務面では手厚い職員体制、残業・持ち帰りなし、休暇も取りやすく、柔軟な勤務形態など働きやすく働き甲斐のある職場づくりに努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育者の環境づくりや言葉がけにより、子どもにどのような力が育まれたかを読み取れる日誌の記録を共有し、目指す保育の向上を期待したい
	内容	園では保育方針である「アドラーの心理学に基づいた保育」について職員間で学び合い、方向性を確認しながら取り組んでいる。日々の保育日誌の記録を活用し、子どもへの言葉がけや環境づくりが理念に沿ったものとなっているか、職員間で事例研修を重ねることで保育内容がより深まるとされる。日誌には一人ひとりの子どもの姿が丁寧に記録されている。更に、ねらいに対する保育者の環境づくりや言葉がけによる、子どもの育ちや興味を次の活動にどのように繋げていくか等が読み取れる記録に努め、目指す保育の実現に向けていくことを期待したい。
2	タイトル	地域の子育て支援に貢献できる取り組みに期待したい
	内容	実習生や職場体験を積極的に受け入れ、次世代の保育士養成に繋げている。また園見学や散歩先の公園では子ども同士と一緒に遊べる場づくりの設定に心がけている。今後はさらに地域に向けて保育園の持つ専門性を地域に還元していくことを目指している。具体的には園が特色としているアドラー心理学に基づいた勇気づけの保育を地域に発信していく、育児講座、育児相談、出産を迎える親の育児体験等を検討している。保育士、看護師、調理員がそれぞれの専門性を活かし地域の子育て支援に取り組むことに期待したい。
3	タイトル	働きやすい職場をさらに進め、ICT化を行い業務の効率化を図ることに期待したい
	内容	園全体で思いやりを大切にして助け合い働きやすい環境を整えている。この働きやすい環境を更に進め、子どもの登降園時間管理や連絡帳、日々の保育記録、事務処理等、ICT化で効率よく業務を遂行できるようにすることが望まれる。保護者意見でもICT化の要望や区の監査においても書類の簡素化の話があり、現在検討中であるが保育士の業務負担軽減のためにも、実行に移していくことに期待したい。

